

志賀原子力発電所敷地内シームに関する追加調査の最終報告について

平素は、当社事業活動につきまして格別のご配慮を賜り厚くお礼申し上げます。

当社は、原子力安全・保安院からの指示文書「敷地内破碎帯の追加調査計画の策定について(指示)」(平成24年7月18日)に基づき、「敷地内破碎帯の追加調査計画」を策定し、調査を実施してまいりました。

平成25年12月19日に、これまでの調査結果に基づき最終報告書を取りまとめ、原子力規制委員会に報告いたしましたので、その概要についてお知らせします。

「シーム」とは、岩盤中の割れ目にある粘土などの薄い層。

■最終報告書の概要

敷地内シームの活動性に関する調査結果

- ◆ シームS-1は「将来活動する可能性のある断層等」ではありません。……………①～⑤
 - ・トレンチ調査など3箇所での上載地層法※1による調査の結果、シームS-1は約12～13万年前※2以降の活動がないことを確認しました。
 - ・ボーリング調査の結果、シームS-1は深さ・水平方向ともに長くないことを確認しました。
 - ・岩盤調査坑調査の結果、シームS-1は繰り返し活動していないことを確認しました。

トレンチ調査：地面に直接、溝を掘る調査 ボーリング調査：地表から円筒状の地層サンプルを採取する調査 岩盤調査坑調査：岩盤にトンネルを掘削して行う調査
 ※1：断層の上位を覆っている地層の年代を求めることで、断層の活動年代を推定する方法。
 ※2：国の新規規制基準では、12～13万年前以降の活動が否定できないものを「将来活動する可能性のある断層等」とされています。
- ◆ シームS-1以外の敷地内シームも「将来活動する可能性のある断層等」ではありません。…⑥～⑧
 - ・敷地内シームは同様な性状・成分であり、深さ・水平方向ともに長くないことを確認しました。
 - ・シームS-4は、建設前に行ったトレンチ調査により、約12～13万年前以降の活動がないことを確認しています。
 - ・シームS-6は、今回のトレンチ調査の結果、約12～13万年前以降の活動がないことを確認しました。
- ◆ 「建設前に行ったトレンチ調査でのシームS-1の岩盤上面の段差」は侵食作用によるものと考えられます。……………⑨・⑩
 - ・建設前に行ったトレンチ調査でのスケッチ形状と同様な形状は、侵食影響の大きい海岸部やシームがない防潮堤基礎部でも多く見られました。

敷地周辺の小規模な断層との関連性に関する調査結果

- ◆ 敷地内シームは、活動性及び連続性等からみて、周辺断層との関連性はありません。……………⑪
 - ・敷地内シームは周辺断層の活動性にかかわらず、「将来活動する可能性のある断層等」ではないことを確認しました。
 - ・敷地内シームは、深さ・水平方向で福浦断層・兜岩沖断層とつながっていないことを確認しました。
- 福浦断層は耐震評価において考慮していきます。……………⑫
 - ・福浦断層南部の大坪川ダム右岸のトレンチ調査の結果、約12～13万年前以降の活動が明確に否定できないものと判断しました。
- 兜岩沖断層は「将来活動する可能性のある断層等」ではありません。……………⑬
 - ・耐震バックチェック※3時の資料に加え、その後の調査データも含め再整理した結果、兜岩沖断層は約12～13万年前以降の活動がないことを改めて確認しました。

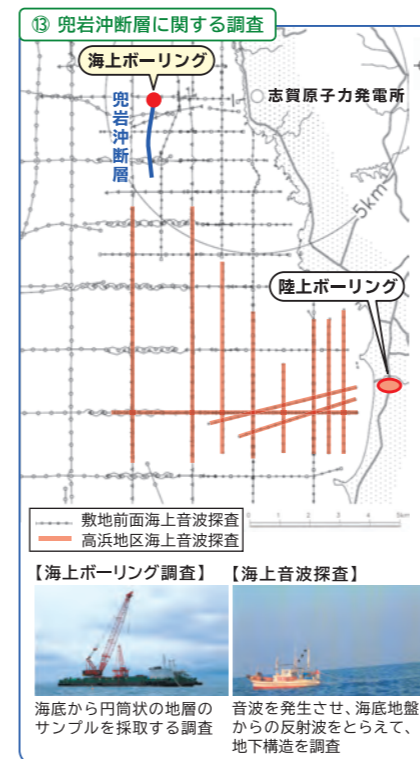
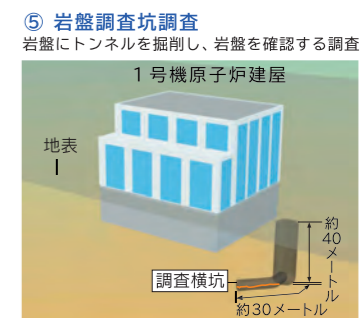
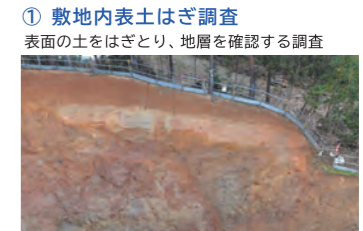
※3：「発電用原子炉施設に関する耐震設計指針」の改訂(平成18年9月)に伴い、志賀原子力発電所の耐震安全性を評価したもの。
 (平成20年3月に志賀原子力発電所の耐震安全性評価(中間報告)を原子力安全・保安院に提出し、翌年2月に妥当との評価結果を受領)

■志賀原子力発電所の耐震安全性

- ◆ 福浦断層を耐震評価において考慮するものとしても、安全性に影響を与えるものではありません。志賀原子力発電所の安全上重要な施設は余裕をもった耐震設計をしており、安全性に問題ないことを確認しています。

当社は、引き続き、志賀原子力発電所の安全性・信頼性の更なる向上に努めてまいります。

■調査位置図[概要]



詳細については当社ホームページに掲載しております。 <http://rikuden.co.jp/shika-chousa>